

今、僕がそんな気で退部したら、キーパーがいなくて、皆が困る。

皆も同じで、一人かけると、もう、他の学校との対抗試合が危うくなる。

「皆、同じ気持ちなんだ。」と思う。

そう考えると、なぜか、反省する。

「一番楽なのは、それでも僕だ。僕が声を出さなきゃ」と思い直す。

僕は、かれた喉をいためながら、急に、大声を張り上げた。

今まで一人でどなっていた小西先生が、なにが起きたのかと、僕を見る。

「ファイト！ファイト！

そこ右や！

はよ走れ！

そうや、左、左！

ファイト！ファイト！」

運動場一杯に肺から息を吐き出し、腹に、力一杯入れて、僕は狼の様に、うなり続けた。

## 地獄の後は天国や